東京家政大学 ヒューマンライフ支援機構 女性未来研究所主催 ハイブリッド講演会

ジェンダー平等の実現のために

～環境に優しい持続可能な社会と私たちの役割～

ジェンダー視点から見る環境問題全般について、持続可能でより豊かな社会に繋げるために、私たちの役割や身近なところから出来ることについて、環境社会学、ジェンダー研究が専門の萩原なつ子氏（独立行政法人国立女性教育会館理事長）による講演が行われた。

2023年6月15日（木）女性未来研究所主催 ハイブリッド講演会を開催

■環境問題とジェンダー

「みなさん、こんにちは。」

講師を務める萩原氏の元気な挨拶から講演会は始まった。自身の専門分野や（独）国立女性教育会館（NWEC）についてだけでなく、講演資料を当日の朝まで作成していた裏話を交えながら自己紹介をした。

高度経済成長期に生まれ育った萩原氏は高校生の時に読んだ本をきっかけに「環境問題」にどっぷりとはまり、同い年の胎児性水俣病患者がいることを知り、公害・環境と女性のつながりに興味をもち、その後の研究テーマにもつながった。そして、「子どもとエコロジー」をテーマに修士論文を執筆したのは『未来世代に対する責任』からだった。「環境問題」に興味を持った10代の時から何も変わらない現状に、萩原氏は参加者たちに向かって「申し訳ない、一緒に考えていきましょう。」と語った。

■多様性を認める社会の実現

「ジェンダー」とは社会・文化の中で後付けされた性別で、身体的な性（SEX）のように固定的なものではない。しかし、社会・文化的背景の一部で地位、権利、役割などの格差が存在している。また、誰もが潜在的に「バイアス（偏見）＝先入観」を持っている。その一例として、萩原氏は近年話題となったニュースを取り上げながら、意図的ではない無意識の差別的言動（マイクロ・アグレッション）について説明した。

これからは先入観を無くし、ひとりひとりの人権が尊重され、自分が持っている力を最大限に発揮する機会が平等に与えられるには『多様性』を認める社会の実現が不可欠である。

■身近な環境問題と「小さな政策決定」

身近なものに自然破壊や環境汚染につながる環境問題が含まれていることを、チョコレートやダイヤモンド、おむつなどを取り上げながら、参加者たちに問いかけた。萩原氏による環境問題に関する替え歌の披露（美声）を挟みつつ、私たちの「小さな政策決定」が結果として生産者を変えることもあれば、生産者の意識が消費者を変えていくこともできる。環境に優しいものを選択していくことが『持続可能な社会』を作っていく。

■ジェンダー主流化とSDGs

1991年に開催されたマイアミ会議は、持続可能な開発におけるジェンダー主流化のターニングポイントとなった。その採択文書はSDGsまで繋がり、前文に「ジェンダー平等の実現」が明記されている。しかし、現在のペースでは更に40年はかかる。日本のSDGs達成ランキングは世界19位（2022年時点）とジェンダー平等の課題は多く残っている。

「平和で人類と地球のよりよい関係」について萩原氏は「SDGsの目標にもある『ひとりひとりの政策決定』、私たちがどのような選択をするのかが『平和な社会』に繋がります。」と語り、講演を終えると会場からは惜しみない拍手が送られた。

■皆さんがハチドリになってほしい

質疑応答の際に萩原氏は『ハチドリのひとしずく』の物語を紹介された。「環境とジェンダーに関する問題は、とても広くて多様。何か違和感に思った時こそ、その『違和感』を突き詰めてください。この物語の様に皆さんがハチドリになってください。」と伝えた。印象に残った参加者が多かったようでたくさんの感想が寄せられた。

「ジェンダー問題」と「環境問題」の同時解決を目指し活動する萩原氏の未来世代に向けた熱い思いが届いたのか、会場では講師の話に耳を傾け、熱心にメモを取る参加者が多くいた。「2つのテーマについて考える機会となった」や「ジェンダーと環境が繋がっていたことに驚きました」との感想から、今回のテーマについて関心の高さを伺えた。

※この講演会の詳細については、当研究所年次報告書にて掲載予定です。

告知　東京家政大学 女性未来研究所　**ハイブリッド講演会**

「わたしの生き方 わたしたちの未来」

参加費 無料

専門性を活かし、「縁の下の力持ち」として真摯に仕事に打ち込んできた卒業生から、先行きが不透明な時代に、自らの道を切り拓き、走り続けている経験を聞き、未来へ羽ばたくためのヒントを探してみませんか。

日時　令和5年11月9日（木）15:30～16:30

対面　三木ホール（本学関係者のみ）

オンライン　Zoom ウェビナー（学外者対象）

※オンライン参加のみ事前登録が必要です。
事前登録締切 11月8日（水）

登壇者　長谷川 美香子 氏
（本学卒業生・令和4年度渡邉辰五郎奨励賞受賞）

プロフィール　本学卒業後、アパレル企業で経験を積み、その後フリーパタンナーとして独立。以降はパリ・ミラノコレクションを含む国内外へパターンを提供。また、培った知識と技術を活かし、パタンナーの育成やブランドコンサルタントとしても活動の幅を広げている。

詳細は女性未来研究所ホームページをご覧下さい。

主催 東京家政大学女性未来研究所